

Saiyu Fund

[西遊基金]



NAGASAKI クエスト



2026年4月・6月実施予定 /

長崎の魅力再発見バスツアーが実現 NAGASAKI クエスト



新入生も在生も、長大生だからこそ
長崎の歴史と文化をもっと知って欲しい

長崎大学では、2026年度から長崎大学の学生を対象とした無料のバスツアー「NAGASAKI クエスト」を開始します。本プログラムは、長崎の歴史・文化を深く学び、地域の魅力を再発見することを目的としています。そして、長崎の活性化を図るビジネスプランの立案、あるいは志を持って新たな課題に挑むために役立つ、多様な視点とアイデアを育む場となって欲しいという思いが詰まったツアーでもあります。

この取り組みは、株式会社A and Live 高田 明代表取締役のご支援とご提案により実現しました。長崎大学の学生であれば学部・学年を問わず誰でも無料で参加することができます。さらに、成果報告会(自由参加)で、優秀なプレゼンテーションを実施した学生には、最優秀賞48万円(1名)、優秀賞24万円(3名)の報奨金が授与されます。学生の視点から生まれる新しい発見や提案が、地域と大学をつなぐ架け橋となることが期待されているのです。

詳細は本学ホームページで随時更新します。新入生の皆さんにとっても、これからの学生時代を過ごす長崎のことをより深く知るばかりでなく、友人をつくるきっかけとしても活用することができるのではないのでしょうか。

※本ツアーの開催日程や、成果報告会及び報奨金等については全て予定となり、変更となる場合があります。



平和祈念像



出島門橋



黒崎教会

※写真掲載については長崎大司教区の許可をいただいています。

長崎は、世界に誇るべき比類なき歴史と文化が息づく地です。産業革命の光、潜伏キリシタンの祈り、そして被爆の悲劇から立ち上がった平和への歩み——。これらは私たちが未来へ語り継ぐべき宝です。長崎大学で学ぶ皆さんには、この地の歴史に刻まれた「平和の価値」を誰よりも深く見つめてほしい。「見て、感じて、考える」バスツアーを通じて、凄惨な過去をも乗り越えてきた長崎の精神に触れてください。その

実体験こそが、混迷する世界を照らし、日本を代表する平和のリーダーへと皆さんを成長させるはず。長崎の声を、あなたの言葉で世界へ届けていく。その挑戦を心から期待しています。



株式会社 A and Live 代表取締役 高田 明 様

卒業生イマナニシテル!?

卒業生の思い出や現在の様子を知ることができる「卒業生イマナニシテル!」が「Web Choho」限定で公開されています。皆さまのお知り合いが登場するかもしれません。また、記事投稿も随時募集しております。ぜひご覧ください。



<https://choho.nagasaki-u.ac.jp/tag/alumni/>

大学への支援はこちらから

西遊基金



「西遊基金」は、長崎が長年にわたって培ってきた個性と伝統を基盤に、地域の発展から地球規模の課題まで、さまざまな問題を解決するための傑出した人材育成を目指した、長崎大学独自の修学支援と、教育・研究の幅広い支援を目指した基金です。TEL:095-819-2155

ご支援ありがとうございました!

CROWDFUNDING

長崎大学の貴重な歴史資料を守りたい
被爆80年プロジェクトが始動しています

被爆遺構



西森一正 名誉教授の 血染めの白衣



旧正門、 旧通用門の 被爆門柱



奇跡に残った 日本西洋医学史の遺産 キュンストレーキ



レントゲン写真で心棒が首まで通っていることを確認。

キュンストレーキの劣化の様子。

キュンストレーキ

長崎大学が所蔵する被爆資料「キュンストレーキ」(紙製人体模型)の本格修復に向け、クラウドファンディングで掲げていた第一目標のひとつ、エックス線検査をこのたび実施しました。キュンストレーキは製作から165年以上が経過し、原爆の影響も受けています。内部構造や支柱の状態を把握せずに修復を進めることは、資料を損なう危険があります。今回の検査で、鉄芯のような心棒が体の中心部から首まで通っていること、足部にはさらに太い芯があることが確認され、関係者一同安堵しました。

保存箱から取り出すのは13年ぶり。損傷が激しいため、展示室に検査機器を搬入し、安全に配慮して撮影を行いました。検査結果は、今後の修復計画の重要な基盤情報となります。

今回の検査により、「想像ではなく根拠に基づいた修復」への道が開かれました。皆さまからのご支援は、資料を未来へ確かな形で手渡すための力となっています。引き続き進捗をご報告してまいります。



13年ぶりに保存箱から取り出された キュンストレーキ。

血染めの白衣

多くの皆さまからの温かいご寄附に支えられ、長崎大学が所蔵する被爆資料「血染めの白衣」の修復・保存に向けた取り組みが、着実に前進しています。

本白衣は、原爆投下直後の医療現場を今に伝える極めて貴重な資料ですが、長年にわたり付着が確認されていたカビ様物質への対応が、修復に向けた大きな課題となっていました。

2025年10月、東京文化財研究所の専門家を迎え、修復作業に先立つ科学的調査を実施しました。A3測定法による検査の結果、白衣表面から検出された数値はいずれも低く、現在もカビが生育している可能性は極めて低いことが確認されました。これは、活発な劣化が進行していないことを示すものであり、今後の修復計画を検討するうえで重要な知見となりました。

このような専門的調査を実施できたのは、寄附者の皆さま一人ひとりの「未来へ伝えたい」という思いがあってこそです。大学では引き続き、科学的根拠に基づいた丁寧な保存・修復を進め、被爆の記憶を次世代へ確かに継承していきます。



綿棒でカビを採取する様子。

長崎大学広報紙「Choho」が 大学広報メディアアワード2025金賞(最高位)を受賞



Choho Vol.86号



日経BPコンサルティングが主催する「大学広報メディアアワード2025」において、長崎大学が発行する広報紙「Choho(チョーホー)Vol.86(2024年11月1日発行)」が、最高位である金賞を受賞しました。

制作に携わっていただいた皆さま、取材に応じてくださった皆さま、そして本紙を育ててくださった読者の皆さまにこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

このアワードは、全国の大学における広報活動の活性化を目指し、多種多様な大学広報メディアを対象に、その質と創意工夫を評価し、より良い広報コミュニケーションのあり方を提起することを目的として創設された、今回が初めての開催となるアワードです。今回は2024年4月1日~2025

年3月31日の間に発行・更新された大学広報媒体を対象に、広報誌部門、デジタルコンテンツ部門、動画コンテンツ部門の3部門で争われました。

その結果、総応募数84大学189作品(広報誌部門応募50作品)の中から、Choho Vol.86(2024年11月1日発行)が、広報誌部門の金賞に選ばれました。

審査講評では、「専門性と地域性のバランス、誌面構成も良い。研究成果もわかりやすく読みやすく、母校愛を醸成する親しみやすさがある」「企画の一貫性と読後の印象が強い優れた広報誌である」等、高い評価をいただきました。

この受賞を励みに、これからも読者の皆さまに長崎大学をよりよく知っていただき、関心を持っていただける紙面づくりに注力してまいります。そし

て読者の皆さまの声が紙面づくりにおいて大きな気付きになります。今後とも忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

長崎大学 広報戦略本部

